

地域とともに 持続的な駅まちづくりを進める取組

深瀬尚子 武部俊寛 出井歩 越知靖也 喜多祐璃 井林彩夏 三浦千明

1. 背景と目的

時代の変化とともに地域から求められる“駅の役割”が変化している。「さこそて」は、Sustainable Community Stationの頭文字をとったもので、単なる“交通”拠点にとどまらず、**地域活性化の核となる“交流”拠点としての駅の新たな在り方を模索する取組**である。地域とともに駅の役割を再定義し、駅舎を活用した実証実験を行うなど、持続可能なまちづくりを目指す取組みとして2019年より継続している。

2. プロジェクトの内容

「さこそて」は、設計会社として駅舎等の設備を設計するほか、将来の運営を見据えて地域に求められる**駅舎の「役割づくり」や「体制づくり（担い手づくり）」**にも関わるのが大きな特徴である。JR桜井線（奈良県）にある三輪駅（無人駅）では、長らく使用されていなかった駅舎を活用したイベントを地域住民や地元事業者・グループ会社と一緒に定期的に企画し、当日の会場設営や運営も含めて担当することで駅を中心とした駅まちづくりを進めている。



「地域作戦会議」を空家を改築したワーキングスペースで開催
もと校長先生や地元の有志が参加



会場となる駅の使用許可や
駅舎の施設管理、駅構内での物販
に伴う手続き等も「さこそて」で行う



社内のワーキング活動
でアイデアを募集し
実践してみる



3. 効果

イベントを通じて、JR西日本グループが地域と真剣に向き合っている姿勢が住民に伝わり、徐々に地域の協力者が増加。**現在では地域住民が主体**となり、月1回の「三輪駅地域作戦会議」を開催し、駅を拠点とした活動を自発的に企画・実施している。ビールイベントや「うま酒三輪 新酒祭り」、スタンプラリーの導入など、鉄道利用を促進しながら地域全体の魅力を発信している。これらの取組みから**“交流拠点”としての駅の可能性が地域に認識されつつある**。

4. 結論

三輪駅での取組みは、行政主体ではなく住民が主導する「ボトムアップ型まちづくり」の好事例である。鉄道施設の設計会社やその関係者が**まずアクションを起こす**ことで、地域と信頼関係を築くことができた。また**地域の住民は駅の新しい価値に気づき、主体的に動き出すことで駅の担い手確保にも繋がる**。今後も駅が地域の拠点となり、持続可能なまちづくりに貢献するためのモデルケースとして「さこそて」を継続する。

人口減少時代のモノづくり モノ（建物）づくり主導からコト（役割）づくり主導へ

